

## 6月1日現在の就職活動状況

選考解禁から2カ月が過ぎ、就職・採用戦線は事実上の後半戦へと移ってきている。6月1日現在の学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は先月に続き前年同時期を上回っていることが分かった。

### 1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は71.2%。前年同時期(67.1%)より4.1ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは75.4%。前年(74.2%)より微増

### 2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均87.5社、エントリーシート提出21.7社。前年との大きな変化なし

### 3. 就職活動継続者の現状

- ”持ち駒企業”を増やす必要性「強く感じる」23.1%。未内定者では30.6%
- ”持ち駒企業”を増やすために見直すこと、「志望業界」70.1%、「志望職種」42.4%

### 4. 就職活動継続者の志望業界と企業規模

- 「銀行」志望が急減。「インターネットサービス」「情報処理・ソフトウェア」が上昇
- 活動の中心は、「中堅中小企業」「規模こだわらない」が先月よりさらに増加

### 5. 就職決定企業に決めた理由

- 「大企業である」が1位に。前年1位の「社会貢献度が高い」は2位
- 就職決定企業への満足度は平均86.2%。前年と変わらず

### 6. 就職先決定のキーパーソン

- 「人事・採用担当者」42.2%で1位。前年より4.4ポイント増

### 7. 理系学生の推薦申し込み状況

- 推薦申込者は理系全体の22.5%。推薦申し込み時期の前倒し目立つ

### 8. 就活川柳

- 全557作品から、佳作11首を紹介

《参考データ》 大学地域別集計(抜粋)

#### 《調査概要》

- 調査対象 : 2015年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答数 : 1,290人(文系男子413人、文系女子340人、理系男子368人、理系女子169人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2014年6月1日~4日
- サンプリング : 日経就職ナビ2015就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は71.2%。先月調査(5月1日現在)よりも12.3ポイント伸び、前年同期に比べて4.1ポイント高い数字となった。6月の内定率が7割を超えるのは6年ぶりで、リーマン・ショック前の水準に迫る勢いを見せている。

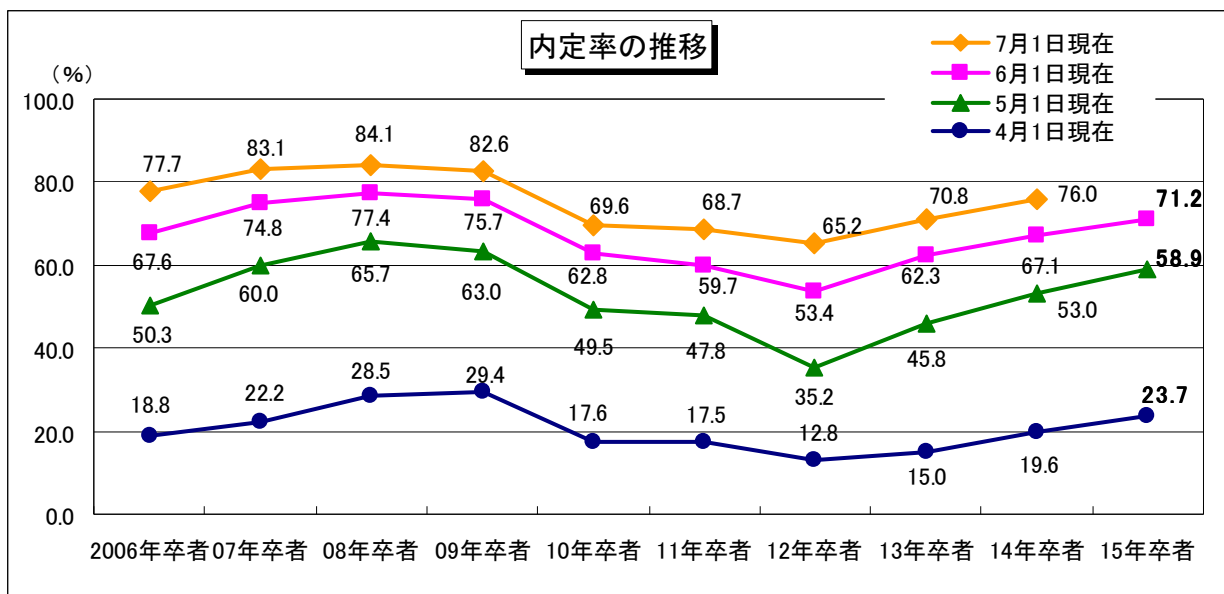
文理男女別に見ると、とりわけ理系の内定率の高さが目立つ(理系男子74.5%、理系女子80.5%)。4月に発表された日本経済新聞社の新卒採用計画調査でも理工系学生のニーズは高く出ており、製造業を中心に獲得競争が過熱していると推察される。

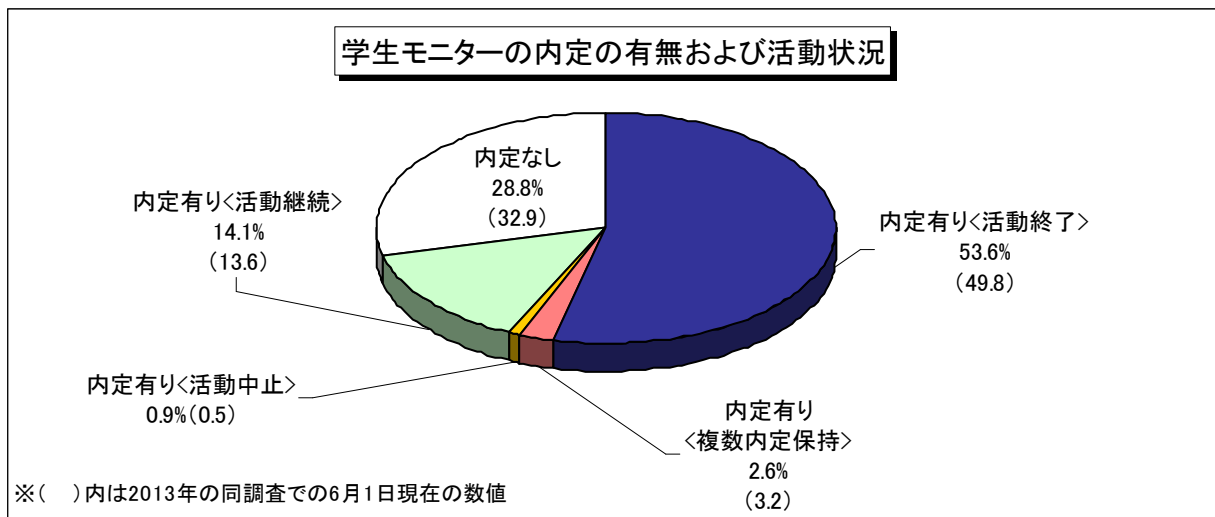
内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは75.4%で、前年同期より微増した。モニター全体を分母にしてみると53.6%となる(次ページ円グラフ)。一方で、「内定を得たが就職活動を継続」と「内定なし」を足し合わせた「就活継続者」は42.9%。就職戦線は事実上後半戦へと移っている。

**6月1日現在の内定の状況** \*「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	71.2 (67.1)	68.3 (66.7)	66.5 (63.5)	74.5 (70.7)	80.5 (69.0)	
内定なし	28.8 (32.9)	31.7 (33.3)	33.5 (36.5)	25.5 (29.3)	19.5 (31.0)	
内定社数(平均/社)	1.9 (2.0)	2.0 (2.1)	2.0 (1.8)	1.9 (1.9)	1.9 (1.9)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	75.4 (74.2)	71.6 (71.4)	69.0 (67.7)	83.6 (83.9)	77.2 (73.0)
	終了したが複数内定保持	3.6 (4.7)	4.3 (5.5)	4.9 (4.0)	2.6 (3.6)	2.2 (7.0)
	進学などの理由で活動を中止	1.2 (0.8)	1.4 (0.7)	0.0 (0.0)	1.5 (1.2)	2.2 (2.0)
	就職活動継続	19.8 (20.3)	22.7 (22.4)	26.1 (28.3)	12.4 (11.3)	18.4 (18.0)

※( )内は2013年の同調査での6月1日現在の数値





## 2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

6月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は87.5社で、前年同期(89.6社)をわずかに下回る水準。セミナー参加社数やエントリーシート提出、選考試験受験数などについても、前年より微減傾向にあるものの、大きな変化は見られない。

活動量は変わらないのに内定率は上昇していることから、学生にとって「内定の取りやすい年」だと言える。

### 6月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年5月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	87.5	85.5	89.6	99.1	100.3	63.3	86.3
セミナー・説明会参加 (社)	52.5	51.0	53.2	57.7	58.7	44.4	45.3
企業単独開催のもの (社)	23.9	22.7	24.6	27.3	27.7	18.1	20.6
合同開催のもの (社)	15.6	15.3	15.6	17.2	16.9	14.0	12.8
学内開催のもの (社)	13.0	13.0	13.0	13.2	14.1	12.3	11.9
オンラインセミナー視聴 (社)	6.2	6.2	6.5	6.4	6.3	6.1	5.8
ライブ中継 (社)	3.1	3.2	3.3	3.3	2.9	3.1	3.0
オンデマンド(録画) (社)	3.1	3.0	3.2	3.1	3.4	3.0	2.8
エントリーシート提出 (社)	21.7	20.2	23.6	24.4	23.5	17.0	22.1
選考試験の受験社数 (社)	30.4	28.0	30.1	34.8	32.9	24.2	27.6
筆記・WEB試験 (社)	15.0	13.7	15.0	17.0	16.3	12.0	14.1
面接試験 (社)	10.4	9.7	10.3	12.0	11.4	8.3	9.5
グループディスカッション (社)	4.9	4.6	4.8	5.7	5.2	4.0	4.0
* 現在選考中 (社)	2.1	2.7	-	2.2	2.5	1.4	2.1
* これから受験予定 (社)	2.3	3.0	-	2.7	2.3	1.7	1.8
* 今後エントリー予定 (社)	7.2	8.1	7.7	7.7	6.7	7.4	6.2

\*「現在選考中」「これから受験予定」「今後エントリー予定」は、就職活動継続者のみ回答

### 3. 就職活動継続者の現状

内定者も含め、6 月 1 日現在で就職活動を継続している学生 (モニター全体の 42.9%) に、選考中の企業数を聞いたところ、平均して 2.1 社だった。4 月時点では 6.2 社あったが、5 月 1 日時点で 2.7 社に減っており、月を追うごとに減少している。

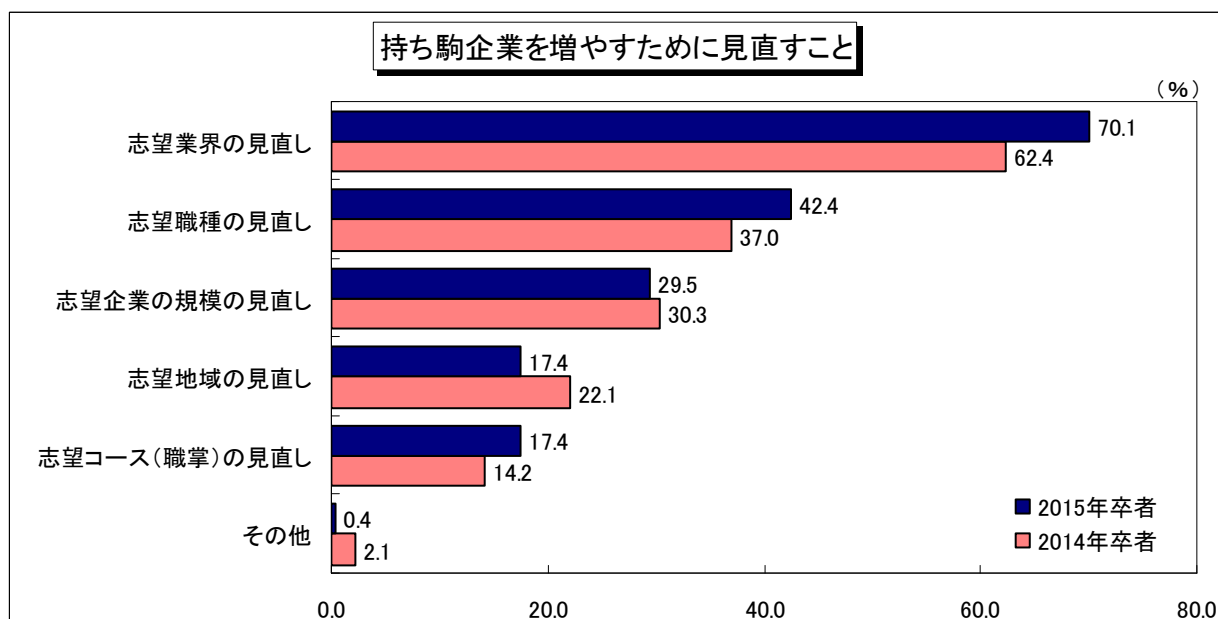
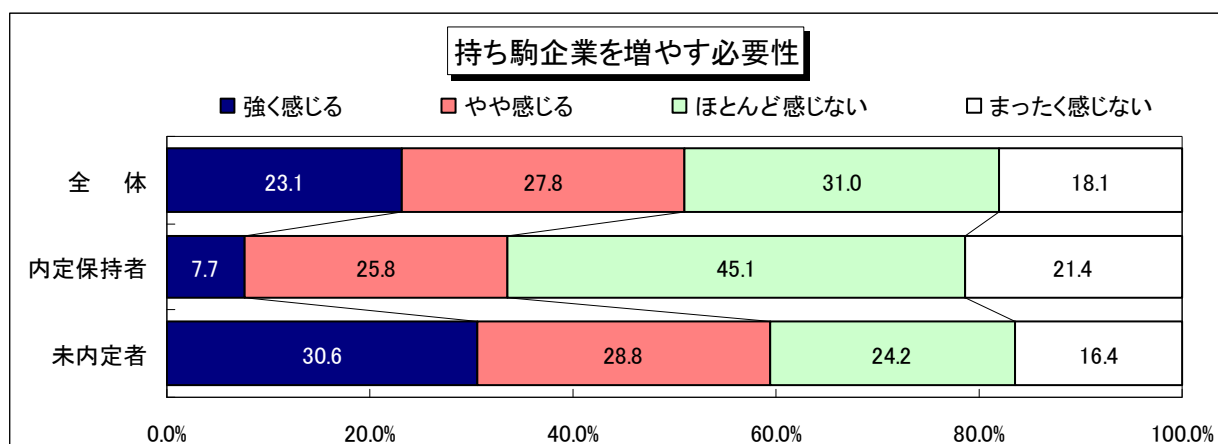
これから受ける企業、いわゆる「持ち駒企業」を増やす必要性について尋ねたところ、「強く感じる」23.1%、「やや感じる」27.8%で、両者をあわせて過半数 (50.9%) が持ち駒を増やす必要性を感じていると回答した。とりわけ未内定者において「強く感じる」の割合が高い (30.6%)。

「強く感じる」「やや感じる」と回答した学生に、どのような方向で増やしたいと考えているか (持ち駒企業を増やすために見直すこと) を重ねて聞いた。「志望業界の見直し」が 70.1%で最も多く、次いで「志望職種の見直し」が 42.4%で続く。両者とも前年調査よりさらに比率が高まった。周囲の友人が志望企業に内定を得て活動を終えていく中、思いきった方向転換を図る学生も多いのではないだろうか。

就職活動継続者の状況(選考中の企業社数)

	全 体	内定保持者	未内定者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
6 月 1 日現在	2.1	2.3	2.0	2.2	2.5	1.4	2.1
5 月 1 日現在	2.7	2.5	2.8	2.6	3.1	2.2	3.0
4 月 1 日現在	6.2	6.2	6.2	6.6	6.8	5.5	5.8

(社)



#### 4. 就職活動継続者の志望業界と企業規模

就職活動継続者に現時点での志望業界を尋ね (全 40 業界)、先月 (5 月) 調査の同データ、および、全モニターを対象に選考解禁前の 3 月に尋ねたデータと比較した。

3 月時点で 1 位だった「銀行」は、5 月には 2 位に下がり、6 月には 8 位へと急激に順位を下げている。多くの銀行で採用のピークを越え、内定を得られる可能性が狭まったためだろう。逆に業界全体での採用規模が大きい「情報処理・ソフトウェア」「情報・インターネットサービス」といった IT 関連が、徐々に順位を上げている。5 月・6 月調査とも「官公庁・団体」が 1 位だが、元から公務員志望の学生に加え、民間企業に内定が出ず公務員に切り替えた学生もいると見られる。県職員などの地方公務員 (大卒程度・上級) の 1 次試験は、今年は 6 月 22 日が多い。

就職活動の中心としている企業の推移を見ると、6 月は「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答がさらに増えた。大手企業の中には既に募集を終了しているところも多く、夏採用があったとしても採用枠は限られることから、継続者の狙いは中堅中小へとシフトしているのだろう。

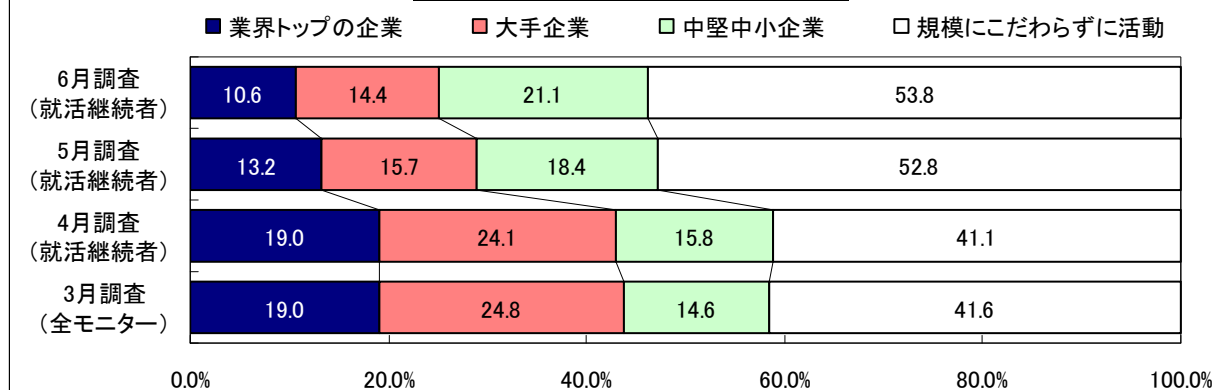
志望業界 (上位 15 業界)

(%)

3月調査 (全モニター)		5月調査 (就活継続者)		6月調査 (就活継続者)	
1	銀行 23.4	1	官公庁・団体 17.2	1	官公庁・団体 20.4
2	水産・食品 17.7	2	銀行 11.7	2	情報・インターネットサービス 12.1
3	素材・化学 15.6	3	水産・食品 11.3	3	水産・食品 11.6
4	電子・電機 15.4	4	商社 (専門) 11.1		マスコミ 11.6
5	運輸・倉庫 14.9	5	情報・インターネットサービス 10.8	5	情報処理・ソフトウェア 10.5
6	マスコミ 14.1	6	素材・化学 10.6	6	商社 (専門) 10.3
7	官公庁・団体 13.6	7	マスコミ 10.5	7	運輸・倉庫 9.6
8	情報処理・ソフトウェア 13.5	8	情報処理・ソフトウェア 9.9	8	銀行 9.4
9	情報・インターネットサービス 13.4	9	電子・電機 9.6		建設・住宅・不動産 9.4
10	建設・住宅・不動産 13.2	10	医薬品・医療関連・化粧品 8.7	10	電子・電機 9.2
	医薬品・医療関連・化粧品 13.2		運輸・倉庫 8.2		医薬品・医療関連・化粧品 9.2
12	保険 12.4	11	建設・住宅・不動産 8.2	12	教育 8.9
13	商社 (総合) 11.8		教育 8.2	13	素材・化学 7.4
14	エネルギー 11.7	14	信用金庫・信用組合 7.7		調査・コンサルタント 7.2
15	商社 (専門) 11.2	15	調査・コンサルタント 7.2	14	機械・プラントエンジニアリング 7.2
					自動車・輸送用機器 7.2

※40 業界から 5 つまで選択

活動の中心としている企業の規模



### 5. 就職決定企業に決めた理由

就職先を決めている学生に、決め手となった理由を選んでもらった。最も多かったのは「大企業である」で、2年前は22.5%で6位だったのが、この2年間で8.6ポイント増え、今年は3割を超えて1位となった。就職環境の好転で、学生の大手志向がより顕わになったと言える。ちなみに、2年前までは「仕事内容が魅力的」が1位だったが、年々ポイントを下げ、今年は3位に転じている。学生の企業選びの観点は、その時々就職環境に左右されることがわかる。

一方、就職決定企業への満足度を尋ねたところ、全体平均で86.2%と、前年・前々年と変化は見られなかった。

就職先企業への情報取得度（就職活動を通してしっかり情報を得られたかどうか）を見ると、「十分に得られた」が44.2%と前年より6ポイント増えた。企業側が意識して情報を提供し、学生の理解向上に努めていることがうかがえる。

就職決定企業に決めた理由

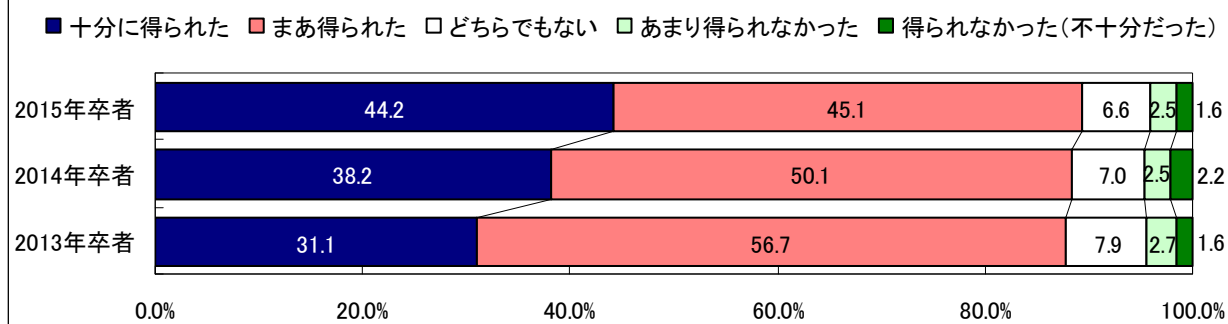
		(%)			
		2015年度	2014年度	2013年度	2年間の ポイント差
1	大企業である	31.1	25.3	22.5	8.6
2	社会貢献度が高い	29.9	33.9	28.9	1.0
3	仕事内容が魅力的	28.9	30.7	31.4	▲ 2.5
4	有名企業である	26.3	25.1	24.3	2.0
5	将来性がある	25.0	25.6	25.8	▲ 0.8
6	職場の雰囲気が良い	22.3	24.6	28.7	▲ 6.4
7	業界順位が高い	20.4	20.4	21.4	▲ 1.0
8	福利厚生が充実している	18.4	23.1	19.2	▲ 0.8
9	世の中に影響力が大きい	18.1	19.7	19.6	▲ 1.5
	給与・待遇が良い	18.1	19.7	21.6	▲ 3.5
11	希望の勤務地で働ける	16.9	18.4	18.6	▲ 1.7
12	希望の職種に就ける	14.2	14.2	11.7	2.5
13	製品・サービスの質が高い	13.0	12.9	7.5	5.5
	優秀な人材が多い	13.0	11.2	13.0	0.0
15	高いスキルが身に付く	11.3	11.2	15.4	▲ 4.1

※全31項目の中から5つまで選択 ※上位15位を抜粋

就職決定企業に対する満足度

		(%)						
		全体	(前年全体)	(前々年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
満足度/平均		86.2	86.3	86.1	85.4	86.5	86.6	86.2

就職決定企業の情報取得度

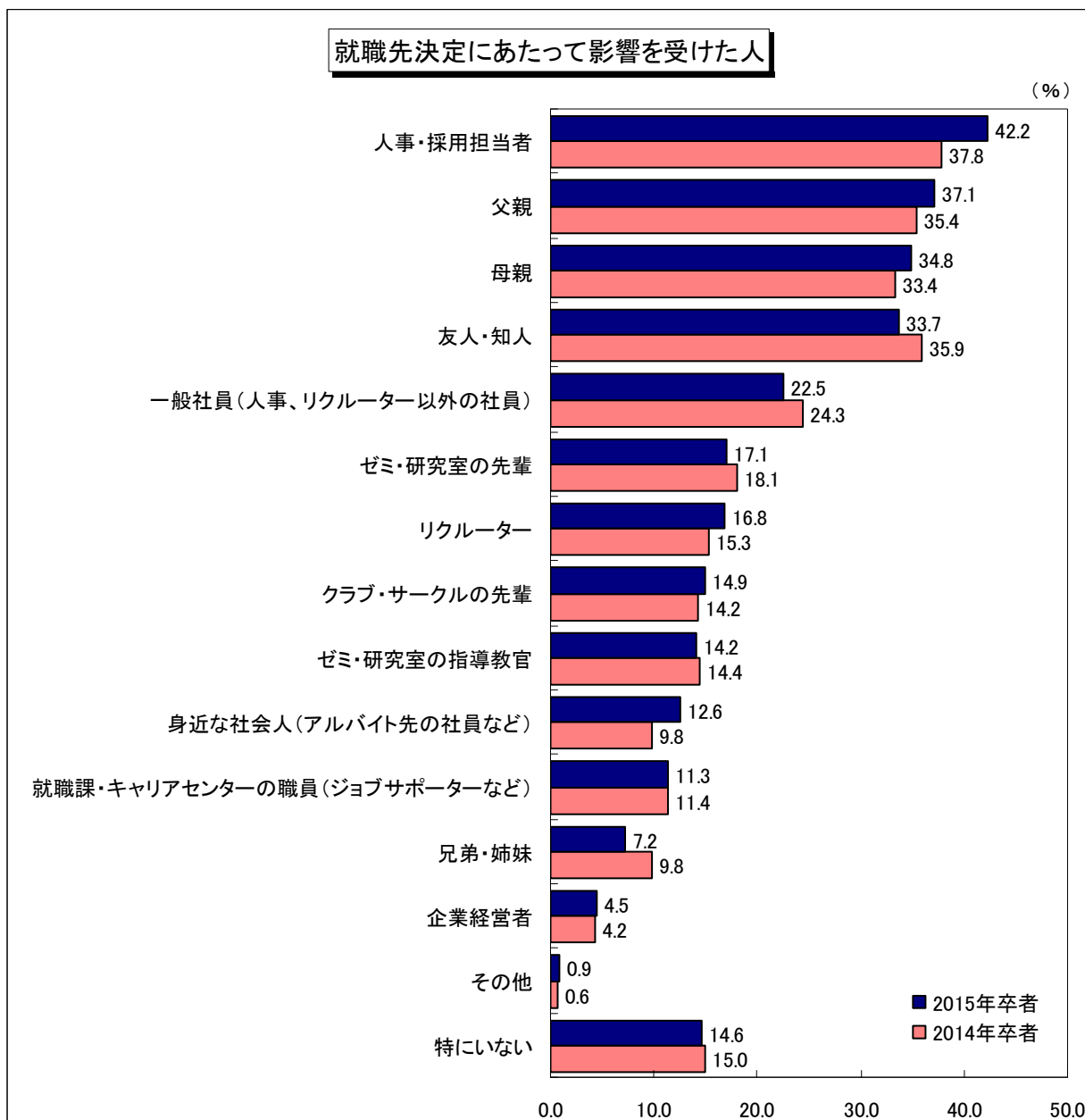


### 6. 就職先決定のキーパーソン

就職先を決めた学生に、決定にあたって影響を受けた人物を尋ねた。

最も多かったのは前年に引き続き「人事・採用担当者」で、42.2%と前年調査(37.8%)より4.4ポイント増えた。学生にとって採用担当者の存在感は高まっていると言える。

次いで「父親」37.1%、「母親」34.8%と続く。いずれも前年よりポイントが増えており、前年調査で2番目に多かった「友人・知人」を上回った。採用担当者だけでなく、親の存在感も増している。家族と相談しながら就職活動を進めている様子が見えてくる。

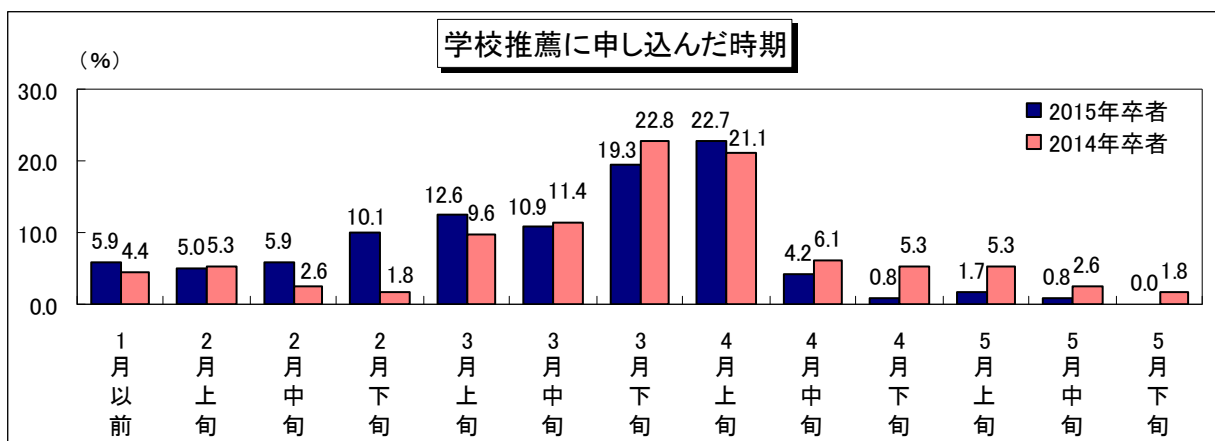
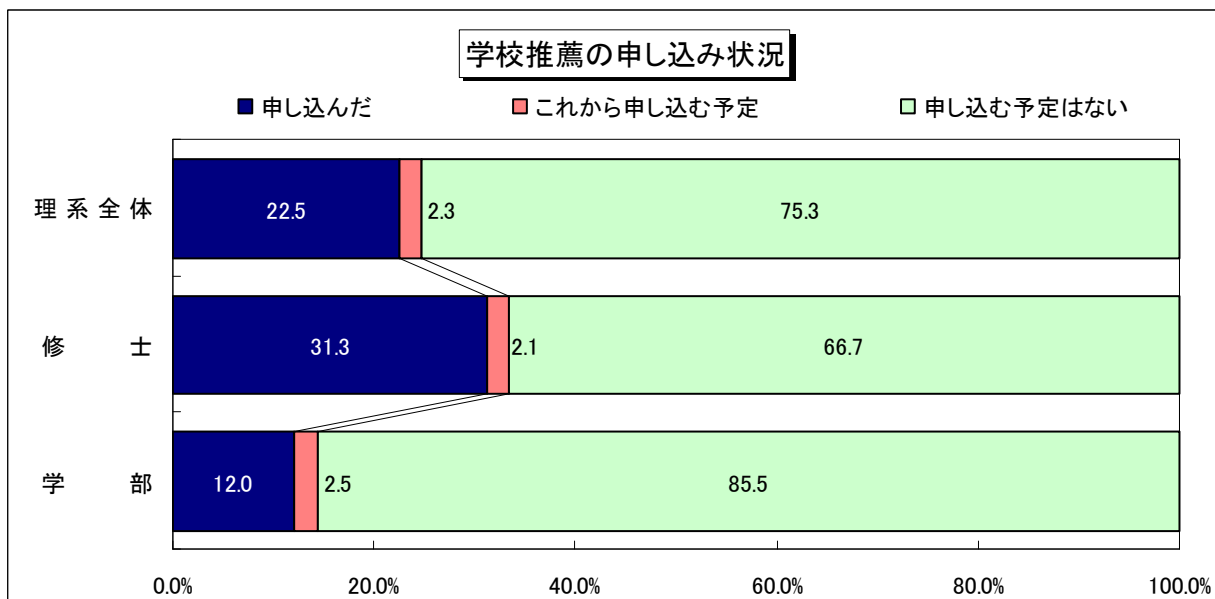


### 7. 理系学生の推薦申し込み状況

理系学生に、学校推薦への申し込み状況を尋ねた。「申し込んだ」との回答は全体の22.5%と2割強。修士学生に限っても31.3%と3割に過ぎず、学部生では12.0%と1割程度にとどまっている。学生モニターは就職活動に積極的であることを差し引いても、推薦制度の利用度は決して高くはなく、依然自由応募が主流と言える。

学校推薦に申し込んだ時期は、「3月下旬」と「4月上旬」に集中している点は前年どおりだが、全体的に前倒しの傾向が表れている。特に「2月中旬」から「3月上旬」にかけて増加が目立つ。

なお、「学内選抜があった」は41.2%と4割強で、残りの6割は学内での選抜を経ずに推薦されている。



### 学内選抜の有無

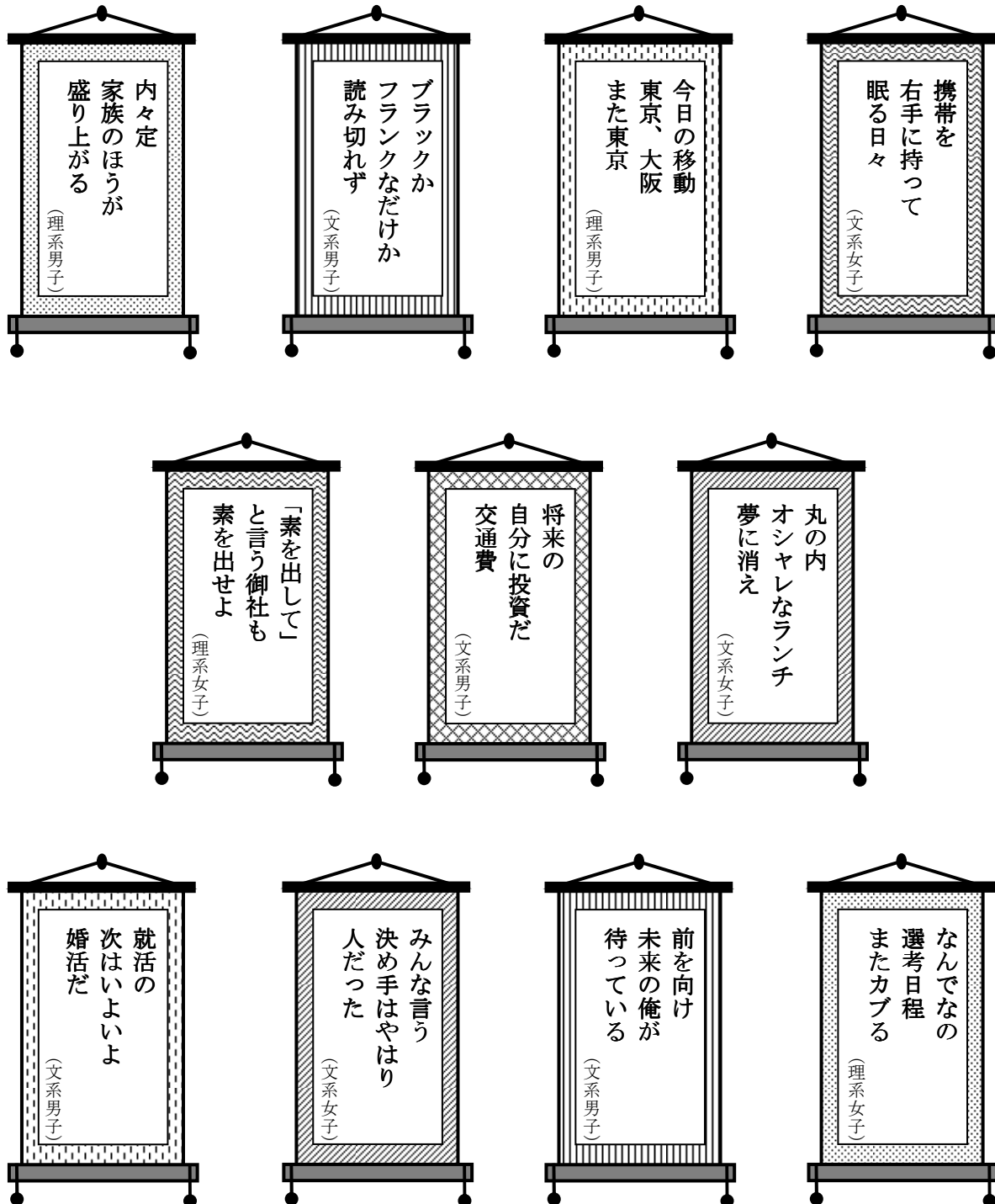
	(%)		
	理系全体	修士	学部
学内選抜があった	41.2	38.9	48.3
学内選抜はなかった	58.8	61.1	51.7



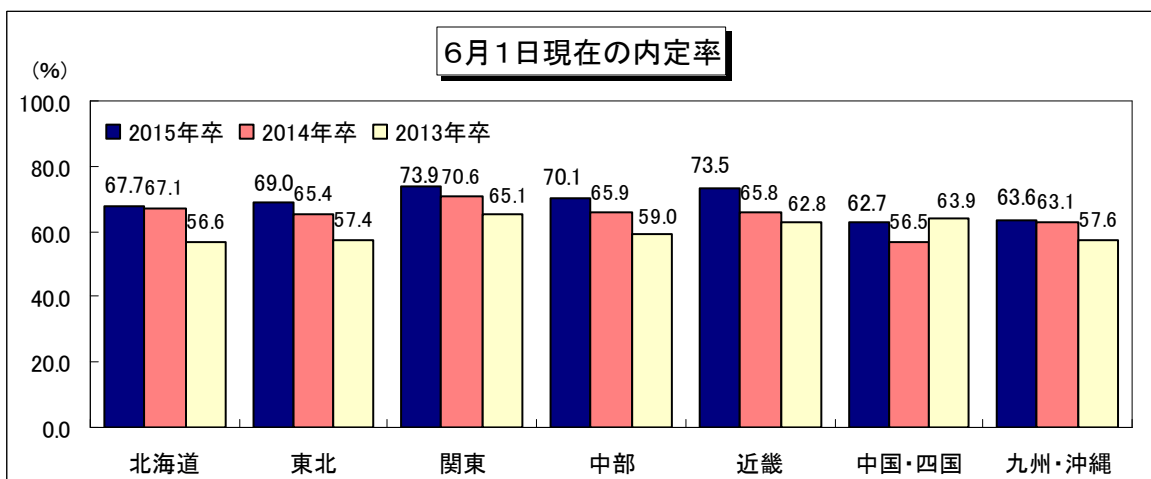
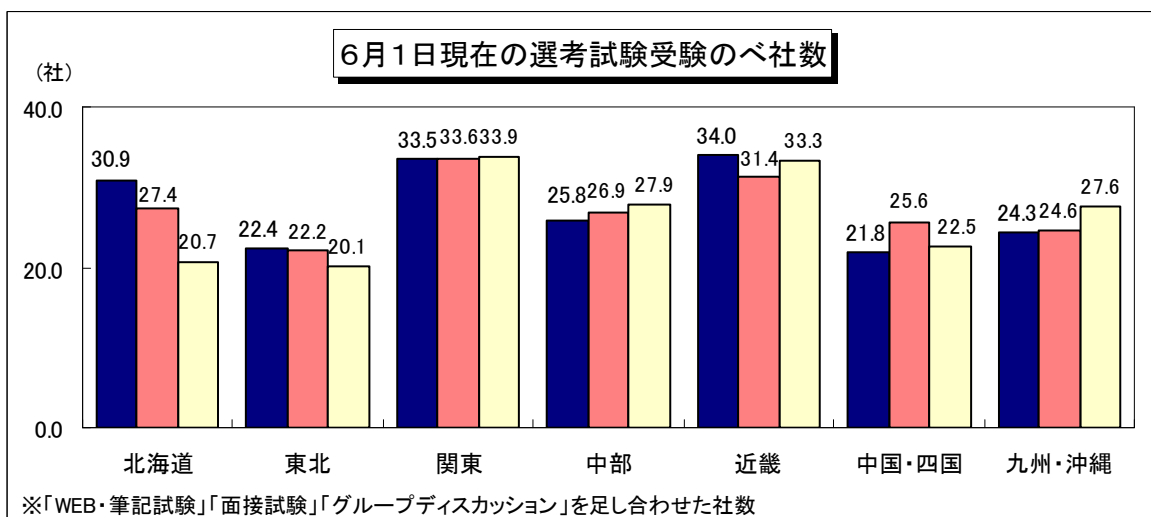
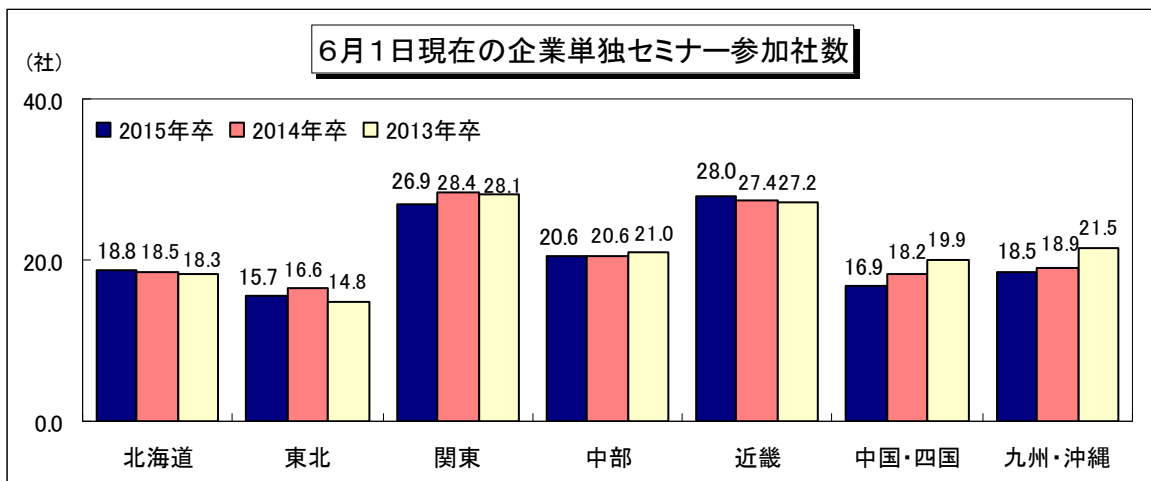
## 8. 就活川柳

就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 557 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

「売り手市場」とも言われる今期の就職戦線だが、初めての就職活動に懸命に取り組む学生の等身大の姿が、川柳の向こうに透けて見える。



《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2015年卒	62	87	532	167	260	83	99
2014年卒	73	78	528	167	269	69	103
2013年卒	53	68	498	166	226	83	92